

第 64 回 杜の都の環境をつくる審議会 議事概要

日 時：平成 25 年 5 月 24 日（金）10 時 00 分～12 時 12 分

会 場：市役所本庁舎 2 階 第一委員会室

出席委員：鈴木会長，杉山副会長，大山委員，近藤委員，瀬上委員，高橋委員，畠山委員，持田委員，渡邊委員（計 9 名）

欠席委員：清和委員，涌井委員，吉川委員（計 3 名）

事務局：建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，公園課長，百年の杜推進課企画調整係長，同緑化推進係長，同緑地保全係長，公園課主幹兼海岸公園整備室長，同施設管理係長，同建設係長，同青葉山公園整備室長，河川課調整係長，道路計画課長，
（計 13 名）

司 会：武者課長

次第

1. 開会

○事務局（渋谷次長）

－挨拶－

○事務局（武者課長）

－配布資料の確認－

○鈴木会長

－議事録署名人の指定，傍聴ルールの説明－

2. 議事

(1) 審議事項

①保存樹木について

○事務局（鈴木係長）

－資料説明(資料 1)－

○持田委員

- ・これまで居久根を守るとは難しかったが，今回の指定により居久根を守るための手法ができる。こういった事例を増やして欲しい。
- ・今回の樹林はかなり模範的なもの。これを標準にするのではなく，居久根を守るという視点から，もっとレベルの低いものも指定する方向で検討していただきたい。
- ・屋敷がなくなってしまった屋敷林・樹林について，例えば区画整理だと更地にして市へ渡さなければならないが，これらを公園の一角にするなど，今回の指定をきっかけにこういった樹林を守るための仕組みを考えていただきたい。

○鈴木会長

- ・本件の認定は問題ないが、そういう形で他の樹林も残せるような施策を検討して欲しい。

○高橋委員

- ・地方によって屋敷林、居久根と言いが違うが、大きな違いは何か。

○事務局（鈴木係長）

- ・仙台市みどりの基本計画の中では、居久根も街中の屋敷林も同じ屋敷林として扱っている。
市東部の居久根については、基本計画の中では屋敷林（居久根）と表記している。

○高橋委員

- ・資料によると、この対象樹林周辺には他に 5 個所の居久根があるが、みどりの骨格充実プロジェクトの一環として、居久根を繋いでいくという考え方はあるか。

○事務局（鈴木係長）

- ・個人所有の土地のほかに寺社林も残っており、今回の指定案件をきっかけとして、周辺の地権者にも働きかけていく予定である。

○畠山委員

- ・保存樹林の指定基準に「樹容が美観上特に優れ」とあるが、その認定基準はあるのか。これがゆえに認定しないということがあるとすれば問題だと思う。

○事務局（鈴木係長）

- ・樹林では、こういう基準を満たしていれば樹容に優れているというものがない。今回の樹林については、樹林全体の適切な管理による美しさと、高木・中低木のバランスの良さなどにより総合的に判断した。
- ・街路樹ではない保存樹林の指定はこれまで 2 件あるが、それ以外の案件については所有者に交渉している段階であり、質問のような事例はない。

○鈴木会長

- ・本件については基準を完全に満たしていること、積極的に保存を推し進めるべきとの意見もあり、保存樹林として認めてよろしいか。

○各委員

- ・異議なし。

(2) 報告事項

① 緑の活動団体の認定について

○事務局（小窪係長）

－資料説明(資料 2)－

○鈴木会長

- ・25 年度、新規団体の参入はなかったのか。

○事務局（小窪係長）

- ・25 年度認定の 8 団体はすべて再認定。花と緑の会、せんだい・市民の森を創る会が 2 期目、サポーターズクラブ以降が 3 期目であり、それぞれが軌道に乗って活躍している団体である。

○鈴木会長

- ・こういう活動をしている団体は、発掘するとほかにもあるかもしれない。25 年度は 8 団体ということだがいかがか。

○瀬上委員

- ・認定のメリットを教えて欲しい。

○小窪係長

- ・活動の立ち上げ支援を目的として、通算 3 年間の助成制度がある。

○鈴木会長

- ・特段意見がないようなので、この活動を支援していくようにお願いしたい。

②海岸公園の再整備について

○事務局（菅原主幹兼室長）

－資料説明(資料 3-1, 3-2)－

○杉山委員

- ・海岸林や公園は元に戻す、避難ルートは現行のままとなっており、全般的に再生のイメージが強い。震災の経験を踏まえて、より改善していくという方向が盛り込まれていない。
- ・3-10 の図では荒浜小学校周辺の白地の部分について、例えば海岸林が薄くなっている土地を市で購入して海岸林を増やすなど、以前の計画からの工夫が見られない。
- ・前々回出された林野庁の断面図では、樹木が育つまでの 30 年間のうちに津波が来ても盛土する丘の部分だけで防御できるような絵になっていたが、3-6 の断面図では、海岸防災林のところは丘でなくフラットになっており、以前の松林を復元する形になっている。
- ・前回の審議会で、避難の丘をかさ上げ道路と連続してつくと、避難する方向に迷うことなく道路を使って避難できると意見したが、3-10 では、避難の丘とかさ上げ道路は全く接点がなく、既存の公園の中に丘を作るようになってしまっている。
- ・避難路について、南蒲生浄化センター1 号線は北側に寄りすぎている。避難を考えると、荒浜原町線と七北田川の間道に設けた方がいい。
- ・林野庁のエリアに関するコメントがあまり見られず、市ができるところだけが書かれている。海岸林全体をどのように再生していくか、貞山運河から内陸は公園的なつくり、海側は防災林に特化するなど、まず市の海岸防災林のコンセプトがあり、その中で林野庁と協力しながら仙台市の役割を区分するという流れがよい。全体的に市がコントロールする範囲に絞った内容になっている。

○事務局（菅原主幹兼室長）

- ・3-10 の白抜き部分について、今年 3 月末までの作業スケジュールで海岸公園基本構想を進めていたこと、市役所内部における東部地区の避難のあり方や避難施設の調整、荒浜地区の土地利用については現在も検討中であることなどから、現時点で構想に盛り込むのは難しい。
- ・3-6 の図面は盛土部の表現が分かりにくいので修正する。
- ・かさ上げ道路と避難の丘の接続については、海岸公園が受け持つ避難対象エリアの考え方、

道路部が検討する避難道路とかさ上げ道路のシミュレーション等を整理しているところである。現在考えている避難のあり方としては、海岸公園利用者については、一次避難場所として避難の丘を設定しており、利用者すべてを収容できる面積を確保する。南蒲生浄化センターは避難道路から離れているが、今回の津波で建物の屋上に避難して全員が助かったこともあり、海岸公園の中で収容するということは想定していない。

- ・海岸防災林について、背後に農耕地があるため、林野庁は盛土と植林のスピード化を図りたい考えのようである。海岸林の再生については、単に国の直轄事業ということではなく、林野庁で行う植林のフィールドを提供してもらい、市民と一緒に植林をしながら緑の再生や復興を図っていききたいというビジョンは持っている。このことについては今回の構想ではなく、計画の中で示したい。

○事務局（佐々木課長）

- ・荒浜地区は危険区域で防災集団移転対象となっている。残地をどうするかについては、復興事業局で検討を進めている。現時点では、メモリアルという観点で海岸公園の事業として取り組む状況はない。今後、復興事業局と調整し、海岸公園として取り組んでいくかということも含めて検討していく。
- ・3-6の断面図の盛土部が分かりにくいので、デフォルメした分かりやすい表現にする。
- ・林野庁では海岸林を元通りに再生するのではない。クロマツは直根性なので、地下水位から3m程度の盛土を行い、きっちりとした土壌基盤をつくって海岸防災林を再生していく。残っている樹林は、極力残す方向となるので、地形に起伏が出る形となる。
- ・海岸防災林はトータルで10年間の事業と聞いている。防災機能の確保が前提で、盛土と植樹を進めている。散策路等、公園としての利活用については、保安林の中に散策路がある絵を示すことは出来ないが、今後、計画・設計の段階で林野庁と連携し、協議しながら取り組んでいく。構想でもそのような含みのある内容を入れていきたいと考えている。
- ・前回の審議会でも指摘のあった陸路で避難できるルートの確保について、井土地区は避難の丘とかさ上げ道路が隣接しているので、かさ上げ道路まで連続したかさ上げができる可能性はある。蒲生地区や荒浜地区は、かさ上げ道路まで距離があり過ぎるため、園路や避難路を市独自で整備するのは財政的に難しい。基本的にはヘリコプターでの避難と救助を前提に進めようと考えている。今後、陸路での避難について可能な部分があれば、計画の中で検討していきたい。

○事務局（荒木課長）

- ・今年3月、津波避難施設の整備についての考え方を策定した。その中で、3本の避難道路は、かさ上げ道路から避難する主要な避難道路と位置付けられている。かさ上げ道路から西側のエリアには集落や農地が広く存在することから、主要な3本の避難道路のほか、東部道路を西側に横断できる約20本の道路も避難のための道路ネットワークとして利用する考えとしている。かさ上げ道路から東側についての避難の基本的な考え方は、公園等の土地利用の状況や圃場整備を考慮しながら、改めて整理していくこととしている。
- ・かさ上げ道路は延長が10kmぐらいあるので、3本の避難道路だけでなく、その東西を行き

来できる道路をあわせて検討して設定したいと考えている。

○杉山委員

- ・いきなり海岸公園整備から始まるので違和感がある。このエリアの市全体の計画があつて、そこから海岸公園の計画となると流れが分かりやすい。
- ・蒲生地区の避難を考えた場合、避難者は南蒲生浄化センター1号線へ上がる道路に集中する。避難の丘からかさ上げ道路まで緩やかな斜面があれば、南蒲生浄化センター1号線、かさ上げ道路の二手に分かれて逃げることができ、安全性が高まる。
- ・津波が予想される場合、避難の丘に逃げるよりも時間に余裕があれば帰宅するのがベスト。走って逃げられる方向に安全な形で避難の丘を用意し、丘をかさ上げ道路に繋がる形で整備することにより、避難ルート安全性、公園で遊ぶときの安心感も変わってくる。いろいろな面で難しいと思うが、その方向をあきらめずに検討していただきたい。

○大山委員

- ・2-34の図と凡例が一致していないので修正して欲しい。
- ・3-1の基本理念の「海岸部特有の白砂青松の景観」について、白砂青松はあくまで植林された人工的な景観である。以前、東北大にいた先生は、砂丘地の本来の植生は広葉樹と言っているし、宮脇昭先生もそう言っている。この表現は誤解を生じる。
- ・今月、秋田県能代市の海岸を見に行ったら、松はほぼ枯れていた。その中で元気だったのは、広葉樹のハマナス、アキグミである。松枯れを防ぐためには薬の散布等が必要で、環境負荷と経費が永続的にかかる。地域の多様な自然を生かした本来の地域の自然再生という視点を持って欲しい。
- ・3-7に「松林の多様な環境質を創出し」とあるが、松林は生物層が単調となる。本来の地域の植生を基本理念にうたって欲しい。

○鈴木会長

- ・海岸林の松林は人工的な植栽で、江戸時代に始まっている。それ以前は、砂がむき出しの植生のない状態だった。海岸の農地開発のため、防砂対策として全国的に広がり、原風景となっていく。その辺のとらえ方の問題である。考え方のスタートとしては、海岸林にクロマツがあるということをもベースにしたいと思う。
- ・植生として単調であるのは、無植生であった海岸に何とか生える樹木を植えた結果である。クロマツ以外は育たない。ニセアカシアが全国的に流行ったが、現在ではほとんどが荒廃しており、他の植物が入り込めない荒れた植生となっている。
- ・クロマツ林がある程度安定し、砂が動くのが止まると他の植物も少しは生えられる状態となる。まずは、クロマツしかない。
- ・アカマツは難しい。
- ・クロマツはもともと宮城県・東北には生えていない。

○大山委員

- ・同期の農大の教授が、本来、砂地には草本、低木、高木があり、低木の部分はマサキトベラ群集ではないかと言っている。そういったものを社会学的な視点でできればと思う。

○鈴木会長

- ・自然では遷移の段階を経て出てくるものだが、まずクロマツが成立して人工的に砂を止めないと無理である。
- ・3-8の小豆色の部分が盛土と理解している。先ほど佐々木課長から、マツの残っているところは盛土しないという話があったが、盛土しないとその部分が窪地になり、水が溜まって枯れてしまうのではないか。
- ・ナラガシワという植物が井土浜にある。ミズナラのように大きなドングリがなり、カシワのように葉が大きい。
- ・津波を逃れたナガラシワが井土地区に数本ある。窪地なることでナラガシワも駄目になるのではないか。
- ・文化財審議委員もやっている関係で、津波がなければ天然記念物にしたいと考えていた樹木である。何とか保護できないか考えて欲しい。
- ・震災前、井土地区の水田の用水路にはニホンメダカがいた。学校の先生かどなたかが保護して増やしていると聞いている。
- ・3m盛土をすることにより、現在までなんとか津波を生き残った自然植生というものが基本的に完全に失われる。もともと仙台平野の海岸部の生物を守る手段としては、レスキューしかないと思う。盛土、造成に入る前に保護して、新たな生息環境をつくって戻すことにより自然の生物層の多様性を維持する。それについてもぜひ検討していただきたい。

○杉山委員

- ・貞山運河の海側は海岸林、陸側は公園との関係、景観も含めて生物多様性をつくっていくという方針を市で決めて、林野庁と交渉していくようにしていただきたい。

○事務局（遠藤部長）

- ・林野庁から、貞山運河から海側はクロマツを中心に植える話が進んでいると聞いている。内陸側は市の所有部分もあり、事業が長期間に渡ることから、生物多様性を考慮しながら林野庁と相談して進めていきたい。

○持田委員

- ・6mのかさ上げ道路が、道路の東西を景観的にも生物的にも分断してしまう。公園など楽しいものを整備しても陸側の移転地から見えない。公園整備と道路が一体となって、なるべく景観的にも生態的にも分断されないように、なるべく海側のアクティビティが感じられるような道路のつくりにして欲しい。

○事務局（渋谷次長）

- ・かさ上げ道路は、復興計画の基本となるので6mの盛土は変更できない。かさ上げ道路に植生を配置すること等は今後検討していきたい。

○持田委員

- ・道路の高さは仕方がないが、内陸側からの見え方を意識していただきたい。かさ上げ道路との取り付け方も圧迫感が出ないように、6mのかさ上げ道路の悪影響をこの公園整備の手法で緩和できることがあれば考えていただきたい。

○瀬上委員

- ・友人が車で避難する時に渋滞に巻き込まれて亡くなった。避難時の心情として車で西側に逃げられると思うので、道路を増やすより車線を増やすことを考えて欲しい。2車線だと2倍の台数が逃げられる。

○事務局（渋谷次長）

- ・市の検討会で交通量を割り出し、車線の幅を決めている。3本の避難道路以外に20本の市道を有効に使うことで、通行には万全を期すことにしている。また、消防局で津波避難タワーを配置する予定である。シミュレーションを踏まえて、道路や施設配置をしている。

○高橋委員

- ・市民と一緒に居久根を育てる方法を模索している。
- ・今回、日辺の居久根が保存樹林として認定されたが、居久根が海岸の方に線で繋がっていきように市民も一緒に取り組み、時間はかかるだろうがその経過を大事にし、次世代へ自信を持って渡していきたい。
- ・実際に委員が現地を見て計画を進めていきたい。

○鈴木会長

- ・以上、委員からの意見を受け止め、より良い仙台へつながる復興基本計画を作り、実施に移していただきたい。

○事務局（佐々木課長）

- ・今回の意見を踏まえて復興基本構想を修正し、最終版は次回の審議会で報告する。

③その他

○高橋委員

- ・震災前から行っていた生き物調査を震災後は年4回、季節ごとに行っている。先週の日曜日にシカの足跡と見られるものを発見したが、フンは見つからなかった。何年か分の生き物調査の資料を作成しているので、参考にして欲しい。

3. 閉会

○事務局（武者課長）

- ・本日の審議会は閉会とする。